



Title	職場・業務紹介 附属植物園
Author(s)	簾内, 恵子; 山形, 剛三; 川端, 清見; 津久井, 孝博; 稲川, 博紀; 荒井, 道夫; 林, 忠一
Citation	北海道大学農学部技術部研究・技術報告, 1, 54-54
Issue Date	1994-03
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/35268
Type	bulletin (article)
File Information	1_p54.pdf



[Instructions for use](#)

附属植物園

簾内 恵子・山形 剛三・川端 清見・津久井 孝博
稲川 博紀・荒井 道夫・林 忠一
(技術部 環境・飼育系 植物管理班)

◆職場紹介

本植物園は明治10年(1877)のクラーク博士の建議にもとづき、明治19年(1886)ほぼ現在の姿に整えられました。以来、生きた植物の保存が107年間休むことなくおこなわれてきました。日本では2番目に古い植物園です。

本園は単に珍しい植物を栽培したり、一年中綺麗な花の絶えない公園ではありません。植物学の教育研究を主たる目的とする総合植物園です。一般市民への公開は、これらの成果に基づいておこなわれます。

◆仕事内容

本園は以下の目的を基本事業として活動しています。

- ①主に植物分類学及び栽培・繁殖の基礎資料として、植物に関する各種の情報の集積とデータ交換。
- ②北海道および冷温帯に生育する野生植物、特に稀少植物・絶滅危惧種の保護のために、栽培・増殖し遺伝子資源の保全を行う。
- ③植物資料(生きた植物・種子・標本)の交換・提供を通じて、国内外の研究機関との学術交流に寄与する。
- ④一般公開により、市民への植物学への啓蒙教育に寄与する。また、都市内緑地として貴重な自然を保護している。

これらのことから植物園に必要なものは1)生きた植物、2)標本・文献・栽培記録・管理データなどの資料で、これらをさらに充実させ、維持管理し、次代に継承することが植物園の責務です。ただし、これらの資料には産地や採集者などの基本データが無ければ価値は激減してしまうので注意して管理しなければなりません。

◆施設、設備、面積等

植物園の総面積は13.3haで、その中に高山植物園、高山植物苗圃、草本分科園、北方民族植物標本園、エンレイソウ実験園、トリカブト園、バラ園、灌木園、苗圃などが点在し、北ローンと博物館前ローンの2カ所の芝生があります。

主な施設は展示温室と育成温室そしてこれを結ぶ管理棟、事務室や研究室のある庁舎の他、フレームや石室、倉庫などがあります。

機械類は芝刈り機、運搬車、土ふるい機、土壤消毒機、チェーンソーなどがあります。

◆悩みや困っていること

全体的に予算が乏しく、光熱水料や人件費の圧迫で消耗品等の維持費が精一杯で、新規事業は殆ど行えずにいます。

◆今後の方向または希望

大学における教育研究の充実はもちろんですが、市民に対し生涯学習や植物学および自然科学への啓蒙教育の場としての一般公開は大きな使命であると考えます。このふたつをどう両立させていくかが大きな課題であり目標です。